

やさしさのち

高校での学びを福祉へ

山崎高校生活創造科

山崎高校生活創造科では、学校家庭クラブの活動として、ひとり暮らし高齢者への配食のお手伝いやクリスマス会の実施、福祉施設の訪問など年間を通して積極的に福祉活動に取り組んでいます。また、カリキュラムの中にも社会福祉を学ぶ科目があり、ホームヘルパー2級の資格を取得することができます。

この資格を取得するためには現場実習が必修で、実際にヘルパーに同行したり、福祉施設で実習を行います。

生活創造科長の福永教諭は



JAオアシス穴桑での実習



実習中の堂元さん「小6のとき、母が父を介護するのを見てこの道に決めました。」

「ホームヘルパーの資格取得を希望する生徒も多く、社協をはじめ地域の福祉関係機関も協力的です。生徒たちが実際の福祉現場を体験することで、仕事の大切さを感じたり、なによりも自らの生活を切り拓くたくましさを感じたり、ほしいと思います。」といわれます。

この春、同校を卒業して、市内の福祉施設に就職予定の堂元未希さんは、「実習では、利用者さんとのコミュニケーションの大切さを学びました。積極的に話しかけていきたい」と抱負を語ってくれました。活力ある若い力で地域の福祉を切り拓く人になってほしいと思います。

(山崎支部 阿曾秀樹)

いのちのみや

生涯学習も地域福祉

学習フォーラムに285名

平成2年に「生涯学習宣言の町・いのちのみや」を宣言した一宮。生涯学習の成果を発表する場として、この2月22日(日)、神戸小学校体育館において、24回目の「まちづくり学習フォーラム」が開催されました。

自治会発表・フォーラムでは、人権学習や運動会、盆踊



横山・三方町・楽里・西安積・関賀・山田自治会の学習委員が、「人権と教育」「健康・福祉」「文化・教養」「生活・環境」など各分野の学習活動を発表



人権作文朗読では、他人に対する思いやりの大切さを、講演では、魅力あるまちづくりを進めるためのポイントをそれぞれお話しいただきました



りや地元のみつり、そして、小地域福祉活動の一環として社協がこの間進めてきたふれあいサロンやふれあい喫茶など、地域のふれあいを高める取り組みが報告されました。小地域福祉活動が生涯学習として定着していることは、社協にとっても大きな成果といえます。

社協では、一人ひとりの学習機会や学習活動を通じて、みんながたすけあう地域づくりができるよう、みなさんの生涯学習を応援します。

(一宮支部 波多野好則)